

MJ進路通信

群馬県立前橋女子高等学校
進路指導部
令和4年9月28日(水) 第24号

1,2年駿台全国模試10/8(土)

国公立二次試験、難関大を意識した模擬試験【英国数】

【目的】将来突破する(すべき)難関大のレベルを知れ!

二次試験を課す国公立大学を志望する前女生が多数います。1年生でまだ具体的な大学がわからないで志望校未定の人も一定数いますが、“難易度の高い”二次試験を課す国公立大学に受かるポテンシャルを持っている前女生が多数います。

ただ、1, 2年生でそういったレベルの大学の実際の入試問題、いわゆる過去問をガチでやろうとしても、範囲が終わっていない科目も多くあり、現時点での学力を測るのには過去問は“まだ”向いていません。2年生は「過去問を見よう、やってみよう」。その目的は、自分が志望する大学の傾向や難易度を知り、残りの1年半(もう500日切ってますが)でどうやって合格点に持って行くかを測り、今後の学習の方向性を決めていくことが重要です。

そこで、難関大学をターゲットにした駿台全国模試を、そこを目指す全国のレベルの高い同級生との相対的位置を測る、難関大学の二次試験、難関私立大学のレベルを体感することを目的としています。

当然、最終的にすごい努力をして、壁を何枚かぶち破って学力レベルを上げていき、そういったレベルの大学の合格に手が届くことになります。今回の駿台全国模試の「出来」で、まだ先の大学に「受かる受からない」が決まるわけではありません。勝負は“その先”。

大事なものは、どういう位置づけでこの駿台全国模試を受けて、その結果今後どのような対策をしていくかを考え実行していくことです。

【位置づけ】食らいつけ! challenge! そして、「捨て問」を見抜け!



得点率の目安を掲載しました。難しい問題があるので、「捨てていい問題」があるということ。東京大学に合格するレベルでも40%はできなくていい問題があるということだ。だから、どれができる問題かを見分け、どれだけ得点を積み重ねられるか粘ること、だれもできない問題に手を出し時間オーバーになってはダメ。これを模試当日のテーマにする。このアプローチはまさに、2/25 国公立前期試験、つまり本番のアプローチそのものなのです。そして、「まずは授業の内容をしっかりと理解」という前女生も多いでしょう。応用問題に苦戦する可能性が高いです。でも、どれだけ食らいつけるか、チャレンジするか、これも大きなテーマの一つです。



最難関大を目指す人は60%、旧帝大、地方国公立医学科を目指す人はまずは半分、ブロック大(千葉、横浜国、東京都立)を目指す人は40%以上得点することを目標に当日臨んでください。

◎駿台模試の得点率目安

駿台模試偏差値	3教科得点率	主な国公立(医・医)	医以外の主な国公立
偏差値75	約70%	東京(理Ⅲ)	
偏差値70	約60%	東京医科歯科	
偏差値65~67	約55~58%	東北、筑波、名古屋	東京
偏差値60~64	約53~55%	横浜市立、金沢	一橋、京都、東工
偏差値57~59	約48~52%	群馬、秋田、山形、旭川医科	大阪、神戸、名古屋
平均点=偏差値50	約40~42%		千葉、横国

【受験後】学年後半でやるべき学習内容を明確にせよ!勉強のギアを上げよ!

「模試を受けて、できすぎて、ショックを受ける」というこの反応が一定数いることでしょう。問題はここからです。先輩達は最終的に二次試験のある国公立大学や早稲田・慶應といった難関私大に合格していています。合格した人は、二次試験レベルの問題を克服していったということになります。最初にしたように「国公立大学で二次試験を課す大学に受かるポテンシャルを持っている前女生が多数」いるわけです。3年生になってそのレベル



の問題を見せられるより(仮に3年になって知ったら「え?そんなレベルまでやらなきゃなの?もう間に合わないじゃん」となるのがオチ)、今体感して、今できなかったとしても何をどうやって勉強すれば克服していけるのか、「どのレベルの問題までやらないとダメだ」「このままの学習に対する姿勢じゃ甘いんだ」と気づけた方が良くないか?多くの前女生がそう気づいて、学習内容や姿勢を精査し、学年後半の学習に繋げ

て行ってほしい。一つギアを入れる、本気になるきっかけの模試にしてください。

一番やってはいけないのは、「できなくてショック」→志望校を下げる(レベルの高い大学に挑戦しない)という人。「今の自分」で受かるところを選ぶことになる。この後、学習範囲は広がるから必然と難易度は上がっていきます。自分も変わっていかないと必然的に成績は下がっていきます。「自分(の意識、姿勢、勉強量)」を変えないと、「志望校を変える(下げる)」発想になっていきます。



高校野球で甲子園(全国大会)に行きたいのなら、全国レベルのピッチャーのスピードボールを早いうちに体感して、どう打てるようにするかを本番までに工夫しレベルアップしていく練習をするでしょう?駿台模試は全国レベルのスピードボールです。体感せよ!

駿台模試を受ける=「できないショック(失敗)を恐れず、挑む!」

だけで受ける意味はある。しかし、それだけではもったいない。最終的にそのレベルまでに

行くために、今の自分に何が足りないのかを考え、この時期に何をすべきなのかを考え実行していこう。

例えば、数学。進研模試で70点以上取れたのに駿台模試ではできなかった、という人は、現在の範囲で受験の基礎学力はあるがもうワンランク上の問題演習の不足が原因と考えられる。だから、授業理解だけでなく「+α」の問題を解いていくことを学年の後半でやりたい。進研模試で50点くらいだった人は、駿台模試の応用問題に飛びついても知識理解として定着していかないのは明らかだ。そう考えると、来年の夏休みに駿台模試レベルの問題をやるレベルに自分の学力を持って行くと定め、そのためにはこの半年で進研模試ができる受験学力の基礎レベルを徹底的に理解するという目標にする。

英語も国語も、駿台模試のレベルの問題は、“なんとなく”では太刀打ちできない、または結果が相性という「運」でたまたま出来たか出来なかったかとなることに気付くはずだ。そうすると、どんな文章でも論理的に正確に読解できる方法を身につけなければならないことに気付く。それをこの半年で、いやできるだけ早く身につけられれば、学力が安定し高いレベルの問題にどんどんチャレンジしていけるようになる。英語で言えば単語、文法、構文、古文で言えば単語、文法（助動詞、助詞、敬語など）、漢文で言えば句法、現代文で言えば現代文用語、読解法がどんな文章をも論理的に正確に読み解くアイテムであることに気付くはずだ。

参考データ【2年駿台全国模試で3教科偏差値65を超えた先輩達の傾向から】

- ①英語
大問1, 2の「読解」、大問3の「英作文」は70%超えの正答率
- ②数学
偏差値50台の人→大問1「小問」で苦戦（平均点以下）
- ③国語
古文は80%超えの正答率。偏差値60と70の差は大問1の「評論」の出来

3年10-12月はガンガン学力を積み重ねられる時期

◎今後の模試予定

10/8(土)	記述模試（ベネッセ・駿台）	全員
10/22(土)	全統記述模試（河合）	全員
10/29(土)	共通テスト模試（ベネッセ・駿台）	全員
11/19(土)	共通テストプレ模試（河合）	全員
11/24(木)～29(火)	二学期期末考査	
12/10(土)	共通テストプレ模試（駿台）	全員
★大学別模試（校内実施）		
11/3(木祝)	大学別プレ模試①（河合、駿台、代々木）	希望者
11/5(土),11/6(日)	大学別プレ模試②（河合、駿台）	希望者
→東大実戦、京大実戦、東北大実戦は別日にて小野池学院（高崎）で実施		

模試は「現時点の自分の弱点を教えてくれる最良の先生」

なんとなくで（得点が）取れるのは「マーク模試」、実力がないと取れないのは「記述模試」。記述模試は10月の2つでラストです（大学別模試を除く）。共通テスト重視の地方国公立大学より上を目指している生徒は、10月の記述模試でどこまで覚えなければ入れないのか、理解しなければ解答にたどり着かないかが理解できたはずなので、それを自覚し頭に入れ直そう。共通テストまで後100日強、国公立2次試験まで後140日強、その期間で模試が教えてくれた弱点・穴を徹底的に埋めるんだ。できるようになる問題を増やすんだ。それが合格に近づく学習法だ。「模試の受けっぱなし」はダメ。自分の伸ばすべきところをしっかりと分析せよ。

大学別模試は大手予備校の「予想問題」

そう考えると、2つ受けておきたい。実際に、京大の世界史は大問1, 3は300字の論述問題であるが、2年前の第2回京大実戦模試の世界史で2問ともドンピシャだった。これは何を意味するか。この模試を受験していたかどうかで可否を分けた可能性が高いということ。

もう一つ。現時点で第1志望との「差」がまだある人（具体的には第1志望がずっとD, E判定の人）は、ランク差をつけて2つ受けること（例えば、「京都一東北」、「一橋一東北」といように）。

「これから増える模試」と「まとめて欲しい学習時間」と・・・



あれやこれやとなるが、シンプルに考える。今やるべきことは「知識を積み重ねること。」逆転したい人は、ライバルよりも一つでも多くの知識を叩き込む。シンプルでしょ？10-12月は学力を一気に、ガンガン積み重ねられる最大の時期。平日6,7時間しかできないから、12,13時間とまとめてできる休日は貴重だ。しかし、これから模試も多くなる。

だから、どこの土日でガンガン学習できるのか、12月までの休日の予定をもう一度確認しておこう。そして、模試が多いと言っても、本番まであと数回を残すのみだ。模試は本番を想定して、本番のつもりで受けることを第一のミッションとする。逆に、色々試せるのも残りの模試で、だ。国語や英語の解いていく順番、など。

模試を戦略的に位置付ける

二学期中間考査に向けて

- 目標や目的をしっかりとって挑む
- 「クラスのスタンダード」を上げる意識を全員が持つ
- 「勉強時間」をとことん削り出せ
- 「もういいかな」「このくらいで・・・」をやらない

予告現役医師を招いての講演会（校内医学科セミナー）10/13(木)